

特別RTD

[SRTD] 【日本病院会病院総合力推進委員会共催】患者にとって最善な医療の選択とは何かーパターンリズムとインフォームドコンセントを問い直すー

座長:有賀 徹(独立行政法人 労働者健康安全機構), 木澤 晃代(日本大学病院 看護部)

Sat. Oct 5, 2019 9:00 AM - 10:50 AM 第2会場 (2F コンベンションホールB)

[SRTD2]救急から在宅までリハビリテーション医療の普遍化で地域生活を支える

○栗原 正紀^{1,2} (1.日本リハビリテーション病院・施設協会名誉会長, 2.日本病院会理事)

超高齢社会における地域医療のあり方では「医療の中に如何にして生活の視点を取り入れて行くか」が重要な課題と考える。果して今までの救急医療は生活を支えることになっていたのか？大きな疑問である。昨今、やっとPICS（集中治療後症候群）が知られるようになり、“助けるだけの救急医療が過去のものとなりつつある”「助けた後、如何にして生活に繋げていくか」が問われている。重要なことはリハビリテーション医療の普遍化と考える。このような視点で議論できれば幸いである。